（削る）

（削る）

2　キシレン可溶物試験法

試料5.00±0.005ｇを精密に量り、温度計及び還流冷却器を装置した2,000mLの二頚フラスコに採り、キシレン1,000mLを加え、これにガラス製沸騰石を投入した後急速に加熱し、沸騰開始後は還流が起こる程度に加熱を続ける。２時間還流後フラスコを50℃まで冷却し、更に冷水により25～30℃までの温度に急速に冷却した後、25±１℃の恒温槽中に一夜放置する。

次に、抽出液をろ紙、更にガラスろ過器を用いてろ過し、最初のろ液450～500mLを重量既知の1,000mLの三角フラスコ中に採り、これを精密に量り、このろ液の重さ（ｇ）をW_1とする。三角フラスコ中にかくはん子を入れ冷却管に連結後、窒素を毎分２～３Ｌの速度で吹き込み、かくはんしながら毎分12～13mLの速度で留去する。

フラスコ中の溶液が30～50mLとなったとき、これを重量既知の乾燥蒸発皿に採り、フラスコを約15mLずつのキシレンで２回洗浄し、洗液は蒸発皿に合わす。次に、蒸発皿上に静かに窒素気流を送り、過熱しないよう注意しながら熱板上で蒸発乾固させる。蒸発皿を真空デシケーター中で12時間放冷した後、蒸発残渣量を精密に量り、この残渣量（ｇ）をW_2とし、次式によりキシレン可溶物を求める。

キシレン可溶物（％）

$=((W_2-W_3)/W_1)\times((\rho\times10^3)/\text{試料（ｇ）})\times100$

W_3：試験溶液と同量の溶剤について得た空試験時の残渣量（ｇ）

ρ　：キシレンの密度

3　強度等試験法

持続耐圧試験

容器包装に希硫酸（持続耐圧試験用）を内容積の95％まで満たし、炭酸水素ナトリウムを希硫酸（持続耐圧試験用）100mLにつき1.5ｇの割合で、溶液に触れないように容器包装に入れ、密栓又は密封した後、炭酸水素ナトリウムを完全に溶解させる。これを45±２℃に保った温水中に入れ、２時間放置して、ガス漏れの有無を調べる。

持続耐減圧試験

容器包装に、製品を充填するときと同じ温度に加熱した熱水を満たした後、直ちに密栓する。これを、25±５℃に保ったメチレンブルー試液（ピンホール試験用）中に入れ、２時間放置した後、取り出して水洗する。

次に、容器包装内の水25mLをピペットを用いて50mLのネスラー管に採り、白色を背景として上方及び側方から観察し、メチレンブルーの着色の有無を調べる。

耐圧試験

密封した容器包装に直径５～10㎜の穴をあけ，空気漏れのないように送気用ノズルを装着し，これに圧力計及び圧縮機を接続する。次に，圧縮機を作動させ294kPaまで加圧を行い，空気漏れの有無を調べる。

耐圧縮試験

内容物又は水を満たし密封した容器包装をＡ図のように置き，次の表の第１欄に掲げる総重量のものにつきそれぞれ第２欄に掲げる荷重を１分間かけ，内容物又は水の漏れの有無を調べる。ただし，箱状の容器包装の場合は，Ｂ図のように置くこととする。